

令和3年度文部科学省委託事業  
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」

# 留学生に関する 実態把握アンケート調査報告書

専修学校対象

令和3年12月調査

一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

## ◇調査方法

調査対象：大専各会員校(専修学校77校、各種学校1校、その他1校)  
調査方法：インターネット調査 (アンケート)  
調査期間：2021年11月24日～12月16日  
回答数：79

## ◇INDEX

P01	1. 調査概要／INDEX
P02	2. 回答者属性
P04	3. 本調査
P04	1-1 留学生の受入れ状況(留学生をまだ受入れていない学校)
P05	1-2 留学生受入れのための課題(留学生の受入れを検討する学校)
P06	1-3 留学生受入れ断念の理由と今後の展望 (以前は留学生を受入れていた学校)
P07	1-4 留学生受入れ再開に向けた課題(以前は留学生を受入れていた学校)
P08	2-1 留学生の来日状況
P09	2-2 渡日前留学生のケア状況
P10	2-3 入学辞退者および中途退学者の状況
P11	2-4 海外からの直接入学の状況
P12	2-5 留学生募集のための海外現地広報
P13	2-6 留学生募集の課題
P14	2-7 今後の留学生募集計画
P15	3-1 コロナ禍以降の留学生支援
P16	3-2 学費納入に関する対応
P17	3-3 コロナ禍の学生支援対応
P18	3-4 コロナ禍の奨学金
P19	3-5 コロナ禍以降の進路指導・就職活動についての課題
P20	3-6 コロナ禍における留学生採用状況
P21	3-7 就職活動先企業への要望
P22	3-8 行政等への要望
P23	3-9 留学生イベントに期待すること
P24	3-10 大専各に期待すること

## 2 回答者属性

### ◇設置者および留学生在籍者数

回答数：79件

	設置者 学校法人立	その他法人立	個人立	総計
専修学校（専門課程）	60 75.9%	10 12.7%	1 1.3%	71 89.9%
いない	22 27.8%	7 8.9%	1 1.3%	30 38.0%
5人以下	12 15.2%	0.0%	0.0%	12 15.2%
6～20人	8 10.1%	1 1.3%	0.0%	9 11.4%
21～50人	2 2.5%	1 1.3%	0.0%	3 3.8%
51～100人	5 6.3%	0.0%	0.0%	5 6.3%
101～200人	6 7.6%	1 1.3%	0.0%	7 8.9%
201人以上	5 6.3%	0.0%	0.0%	5 6.3%
専修学校（高等課程）	4 5.1%	2 2.5%	0.0%	6 7.6%
いない	3 3.8%	2 2.5%	0.0%	5 6.3%
6～20人	1 1.3%	0.0%	0.0%	1 1.3%
各種学校（日本語学校）	1 1.3%	0.0%	0.0%	1 1.3%
101～200人	1 1.3%	0.0%	0.0%	1 1.3%
各種学校（その他）	0.0%	0.0%	1 1.3%	1 1.3%
いない	0.0%	0.0%	1 1.3%	1 1.3%
総計	65 82.3%	12 15.2%	2 2.5%	79 79

### ◇総実員数に占める留学生数

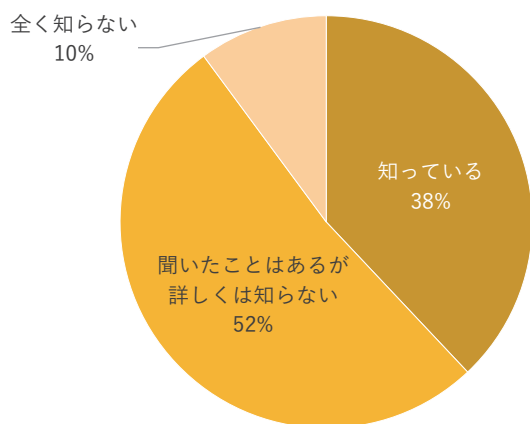
回答数：79件

総実員数		うち留学生数						
		いない	5人以下	6～20人	21～50人	51～100人	101～200人	201人以上
100人以下	(n=11)	54.5%	18.2%	9.1%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%
200人以下	(n=21)	66.7%	4.8%	14.3%	0.0%	9.5%	4.8%	0.0%
500人以下	(n=23)	52.2%	21.7%	4.3%	4.3%	4.3%	13.0%	0.0%
1,000人以下	(n=17)	23.5%	11.8%	17.6%	0.0%	11.8%	17.6%	17.6%
1,500人以下	(n=6)	0.0%	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	33.3%
2,000人以下	(n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総計	(n=79)	45.6%	15.2%	12.7%	3.8%	6.3%	10.1%	6.3%

## 2 回答者属性

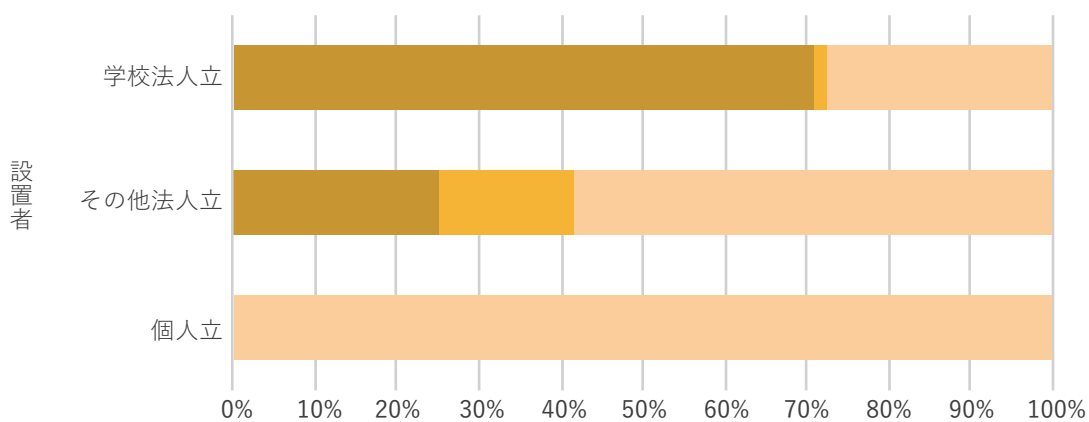
### ◇大専各の「留学生委員会」の活動を知っていましたか？

回答数：79件



### ◇留学生の受け入れ状況

回答数：79件



			留学生受け入れ状況留学生を受け入れている		留学生受け入れ状況留学生を以前は受け入れていた		留学生受け入れ状況留学生をまだ受け入れていない	
設置者	総計	(n=79)	49	62.0%	3	3.8%	27	34.2%
	学校法人立	(n=65)	46	70.8%	1	1.5%	18	27.7%
	その他法人立	(n=12)	3	25.0%	2	16.7%	7	58.3%
	個人立	(n=2)	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%

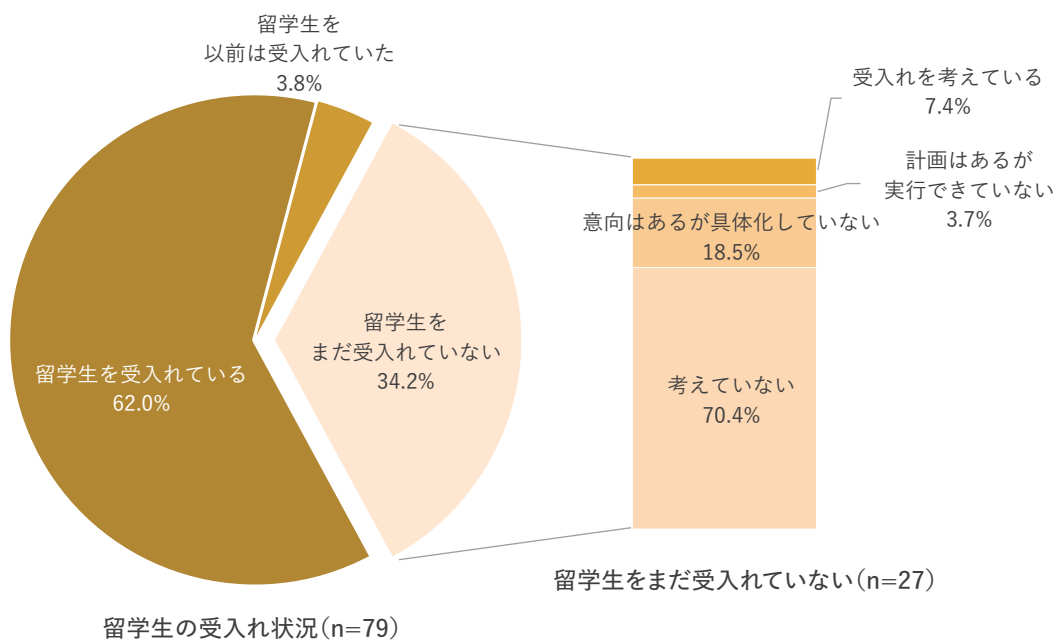
[留学生をまだ受入れていない学校]

## 1-1 留学生の受入れ状況

「留学生をまだ受入れていない学校」の今後の留学生の受入れ意向については「考えていない」という回答がもっとも多い(24.1%)。一部今後の受入れを検討している学校もあるが、「具体化していない」「計画はあるが実行できていない」など意向に反して具体的な動きにつながられていない様子が見られる。

◇以下、留学生をまだ受入れていない学校に伺います。  
今後、留学生の受入れを考えていますか？

回答数：27件



# 3 本調査

[留学生の受入れを検討する学校]

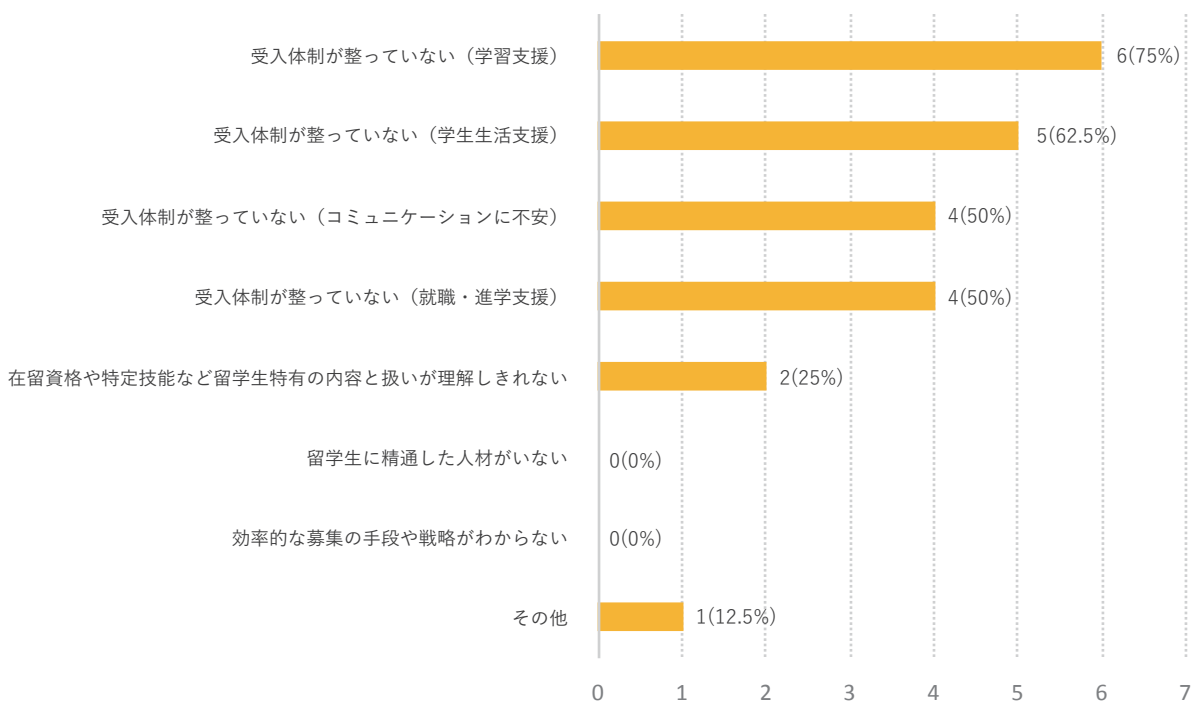
## 1-2 留学生受入れのための課題

「留学生の受入れを検討する」と回答した学校に対し、受入れのためのハードルについて質問した。最も多かったのは、「受入体制が整っていない(学習支援)」で75%。次いで「受入体制が整っていない(学生生活支援) (62.5%)」「受入体制が整っていない(コミュニケーションに不安)50%)」「受入体制が整っていない(就職進学支援) (50%)」と受入体制の不十分に関する回答が上位を占めた。留学生を新たに受入れるにあたり、さまざまな方面での整備が必要であることがわかる。

◇ 「留学生の受入れを検討する」 選択肢を選んだ方に質問です。

留学生受入れの主要なハードルはどんなことですか？ (複数回答可/3つまで)

回答数：8件



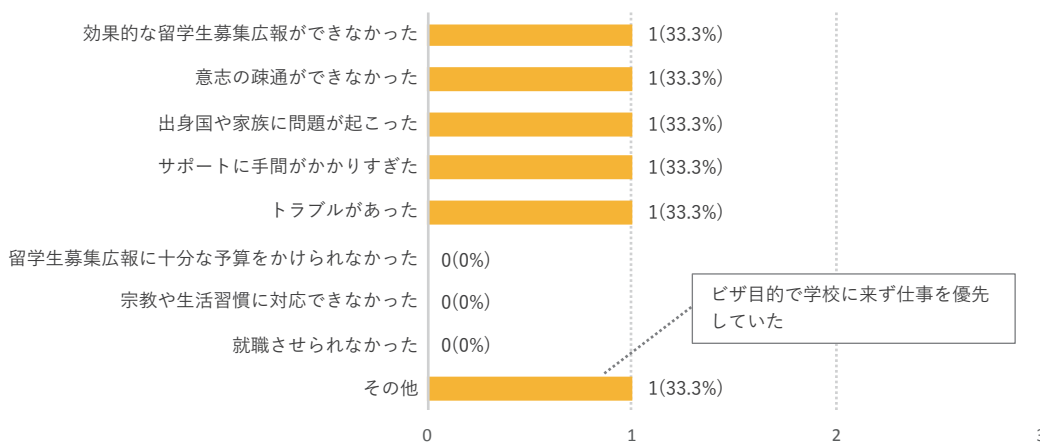
[以前は留学生を受入れていた学校]

## 1-3 留学生受入れ断念の理由と今後の展望

「以前は留学生を受入れていた」学校に対し、受入れ停止理由を尋ねた。学校や留学生個々にケースは異なるが、さまざまな要因が留学生受入れ停止に影響を与えることがわかる。今後の受入れ意向についてはすべての学校が計画または意向があると回答したが、具体的には進んでいないことがわかる。

◇ 「以前は留学生を受入れていた」学校に伺います。  
受入れをやめた理由を教えてください(複数回答可/3つまで)

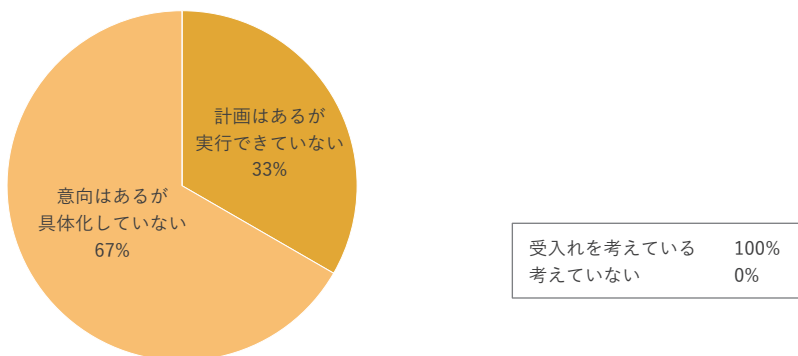
回答数：3件



ビザ目的で学校に来ず仕事を優先していた

◇ 「以前は留学生を受入れていた」学校に伺います。  
今後、留学生の受入れを考えていますか？

回答数：3件



受入れを考えている 100%  
考えていない 0%

# 3 本調査

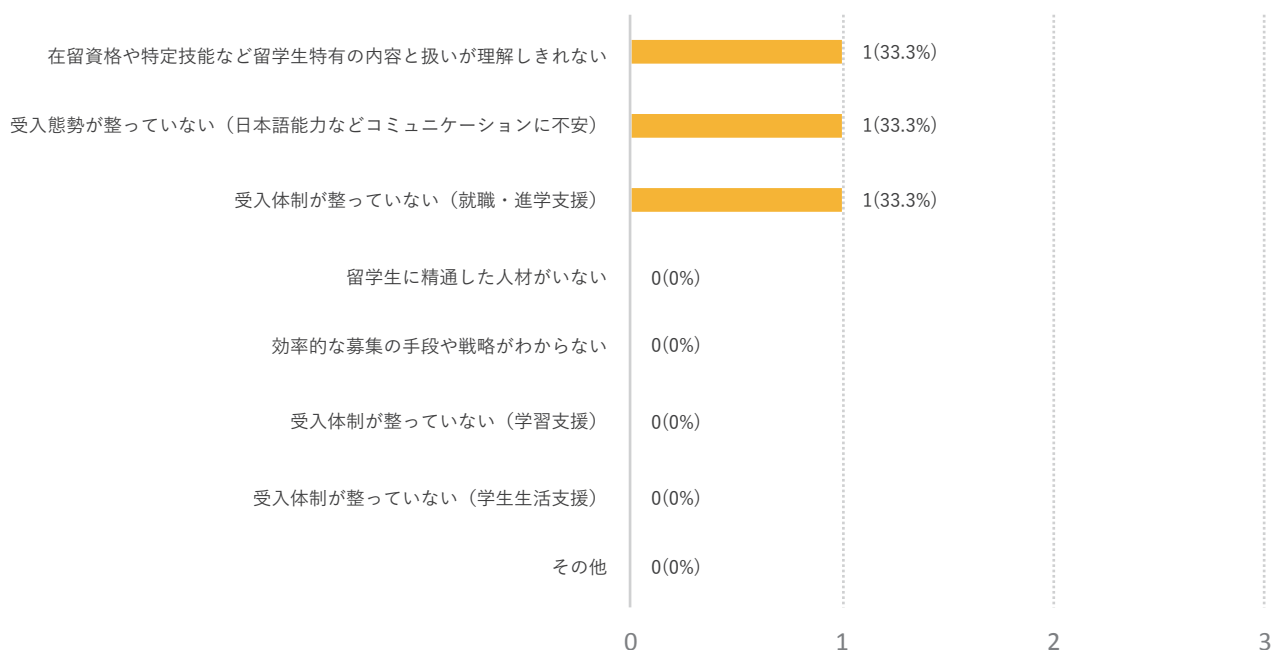
[以前は留学生を受入れていた学校]

## 1-4 留学生受入れ再開に向けた課題

「以前は留学生を受入れていた」かつ、「今後、受入れを検討する」と回答した学校に対し、現在の受入れ再開に対するハードルを尋ねた。「在留資格や特定技能など留学生特有の内容と扱いが理解しきれない」「受入れ体制が整っていない(日本語能力などコミュニケーションに不安)」「受入れ体制が整っていない(就職・進学支援)」と学校ごとにさまざまな理由で再開に踏み切れていないことがわかった。

◇ 「以前は留学生を受入れていた」かつ「今後、受入れを検討する」学校に伺います。  
留学生受入れの主要なハードルはどんなことですか？(複数回答可/3つまで)

回答数：3件





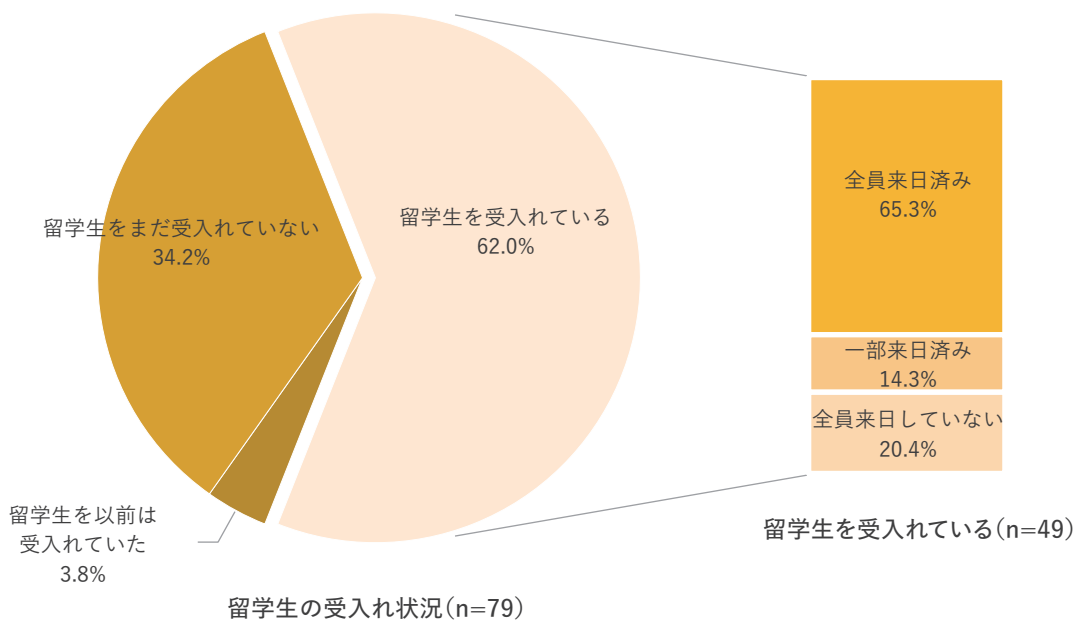
[すでに留学生を受入れている学校]

## 2-1 留学生の来日状況

「すでに留学生を受入れている学校」では、「全員来日していない(12.7%)」との回答もあったものの、「全員来日済み(40.5%)」「一部来日済み(8.9%)」と約半数の学校で入学予定者の来日が確認できた。

◇すでに留学生を受入れている学校に伺います。  
入学したけれど来日できていない留学生はいますか？

回答数：49件



# 3 本調査

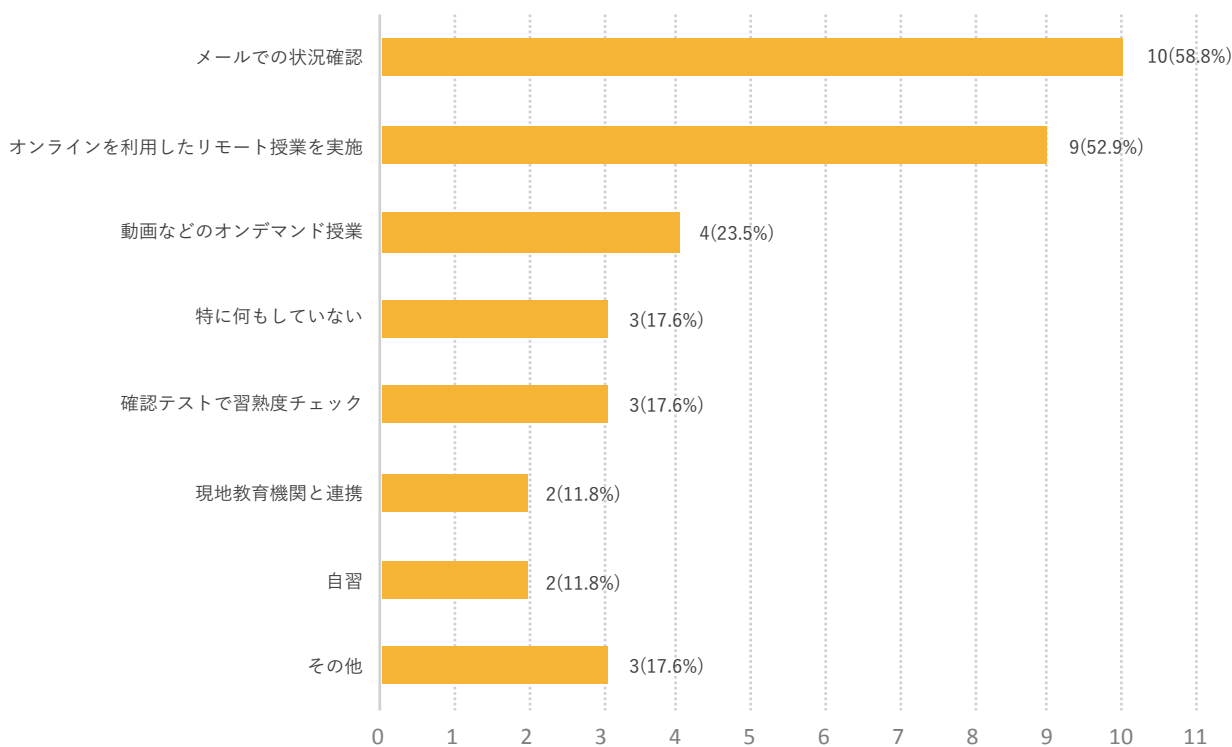
[すでに留学生を受入れている学校]

## 2-2 渡日前留学生のケア状況

「一部来日済み」「全員来日していない」と回答した学校での、来日前学生ケアは「メールでの状況確認」が最も多い(58.8%)。オンラインを利用したリモート授業を実施(52.9%)、「動画などのオンデマンド授業(23.5%)」などの回答もあったが、「特に何もしていない」という回答も17.6%あり、渡日前留学生を多く抱える日本語教育機関と比較すると学習サポートが十分でないケースが考えられる。

◇「一部来日済み」または「全員来日していない」と回答いただいた方への質問です。  
来日前留学生のケアはどのように行っていますか？または行いましたか？

回答数：17件



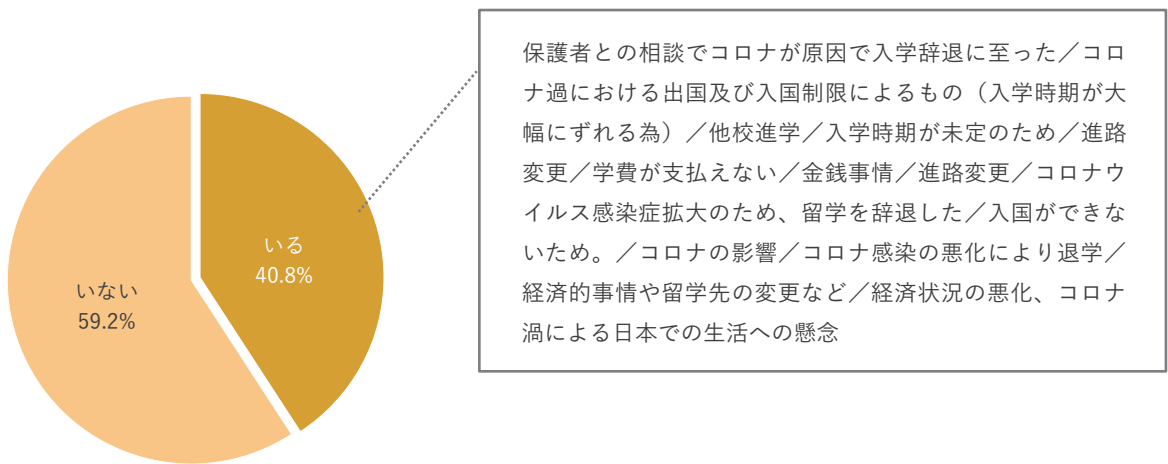
# 3 本調査

[すでに留学生を受入れている学校]

## 2-3 入学辞退者および中途退学者の状況

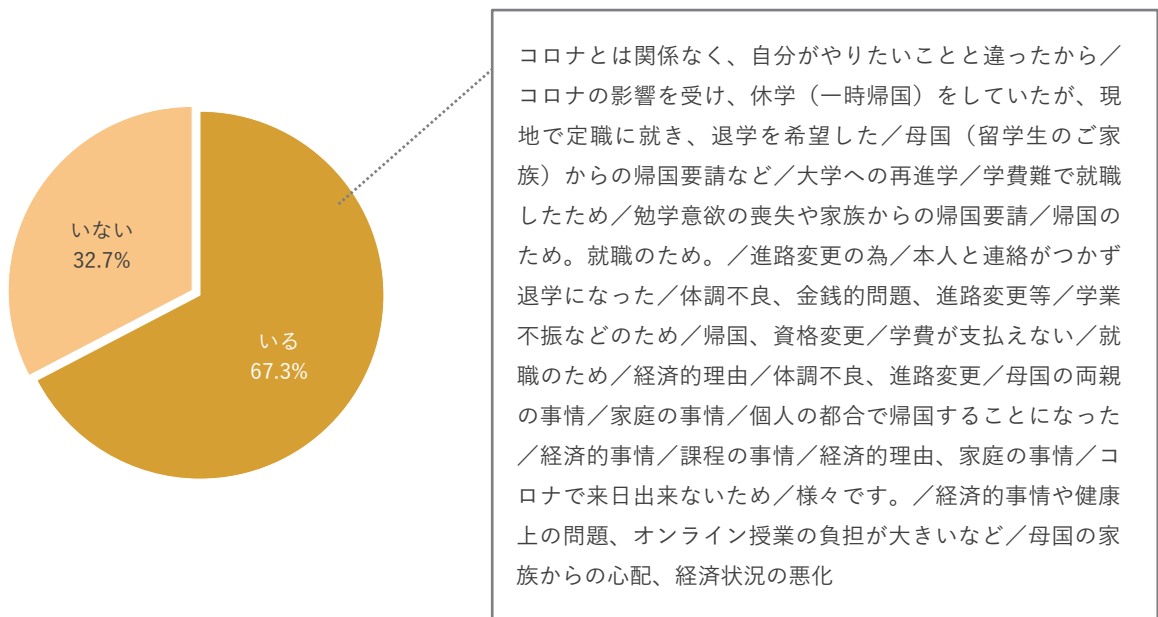
留学生受入れ校での「入学辞退者」は40.8%の学校で「いる」という回答があった。入学辞退の主な理由としては、コロナ禍での留学生活への不安や入国制限などが主な理由に挙げられた。「中途退学者」については、「いる」と回答した学校が67.3%でこちらはコロナの影響だけではなく本人理由なども複数上げられ、さまざまな理由で退学をしていることがわかった。

◇学生の入学辞退者はいましたか？ いた場合はその他に理由もご記入ください。 回答数：49件



◇現在までに留学生の中途退学者はいましたか？  
いた場合はその他に理由もご記入ください。

回答数：49件



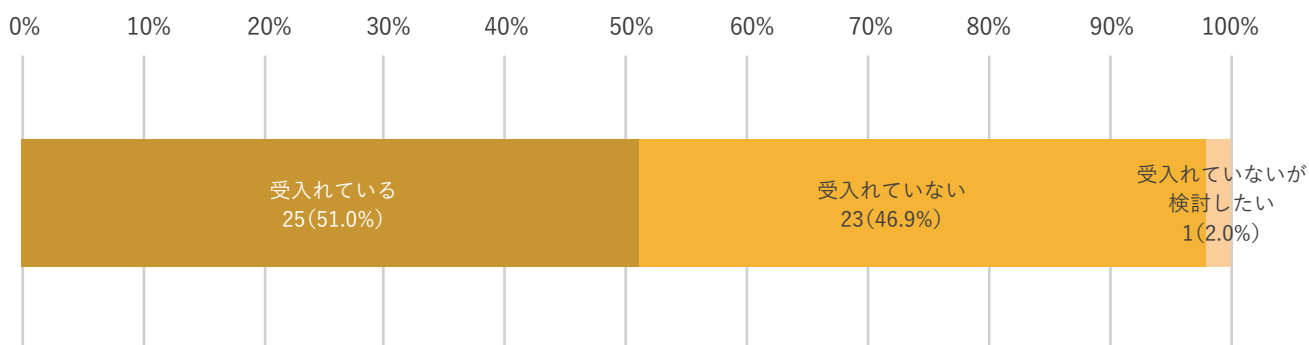
[すでに留学生を受入れている学校]

## 2-4 海外からの直接入学の状況

留学生受入れ校に対し、海外からの直接入学受入れの状況については51.0%の学校が「受入れている」と回答。「受入れていないが検討したい」という学校もあった。現在の留学生在籍者数別にみていくと、留学生数が多いほど直接受入れの割合も高いことがわかる。

### ◇海外からの直接入学を受入れていますか？

回答数：49件



留学生数		海外からの直接入学受入れ		
		受入れている	受入れていない	受入れていないが検討したい
総計	(n=49)	51.0%	46.9%	2.0%
いない	(n=6)	50.0%	50.0%	0.0%
5人以下	(n=12)	8.3%	83.3%	8.3%
6～20人	(n=10)	70.0%	30.0%	0.0%
21～50人	(n=3)	0.0%	100.0%	0.0%
51～100人	(n=5)	80.0%	20.0%	0.0%
101～200人	(n=8)	75.0%	25.0%	0.0%
201人以上	(n=5)	80.0%	20.0%	0.0%

# 3 本調査

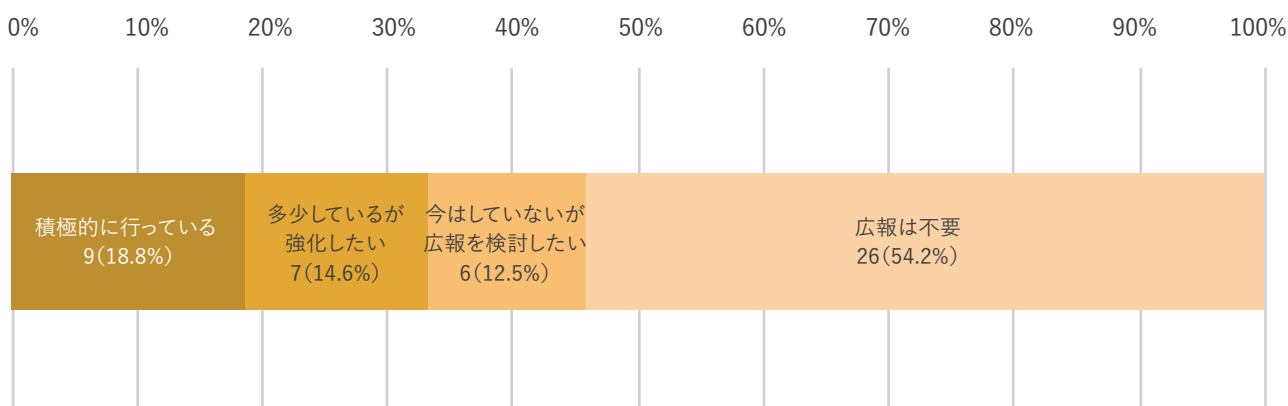
[すでに留学生を受入れている学校]

## 2-5 留学生募集のための海外現地広報

留学生募集のための「海外現地への広報活動」については、18.8%の学校が「積極的に行っている」、14.6%が「多少しているが強化したい」と回答しているものの、「広報は不要」の回答が半数を超えた。留学生の在籍数が多い学校ほど、すでに海外現地での広報活動を行っていたり、今後検討をしたいとしている。

### ◇海外現地への広報について

回答数：48件



留学生数		海外現地への広報			
		積極的に行っている	多少しているが強化したい	今はしていないが広報を検討したい	広報は不要
総計	(n=48)	18.8%	14.6%	12.5%	54.2%
いない	(n=6)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
5人以下	(n=12)	0.0%	0.0%	16.7%	83.3%
6~20人	(n=10)	30.0%	30.0%	10.0%	30.0%
21~50人	(n=3)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
51~100人	(n=4)	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%
101~200人	(n=8)	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%
201人以上	(n=5)	40.0%	0.0%	0.0%	60.0%

# 3 本調査

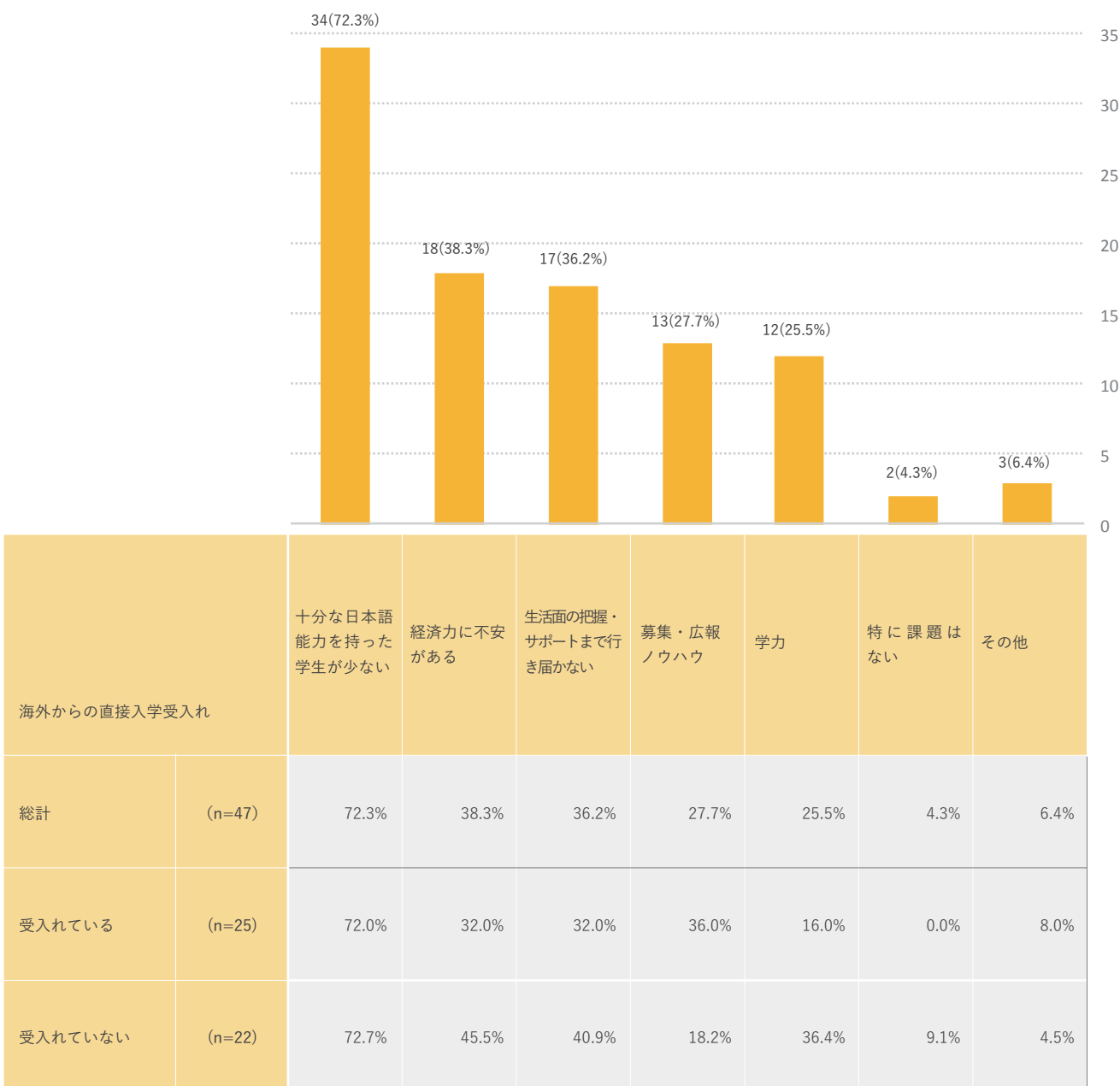
[すでに留学生を受入れている学校]

## 2-6 留学生募集の課題

留学生募集のための課題は、「十分な日本語能力を持った学生が少ない」が最も多く、72.3%。それ以外の選択肢はほぼ横ばい。ただし、海外からの留学生直接受入れをしている学校とそうでない学校とで、項目内の比率に差が生じている。海外からの直接入学受入れをしている学校は、「募集・広報ノウハウ」の回答率が高く、受入れをしていない学校は「学力」「経済力に不安がある」「生活面の把握・サポートまで行き届かない」という回答が多かった。

### ◇留学生募集についての課題

回答数：47件



# 3 本調査

[すでに留学生を受入れている学校]

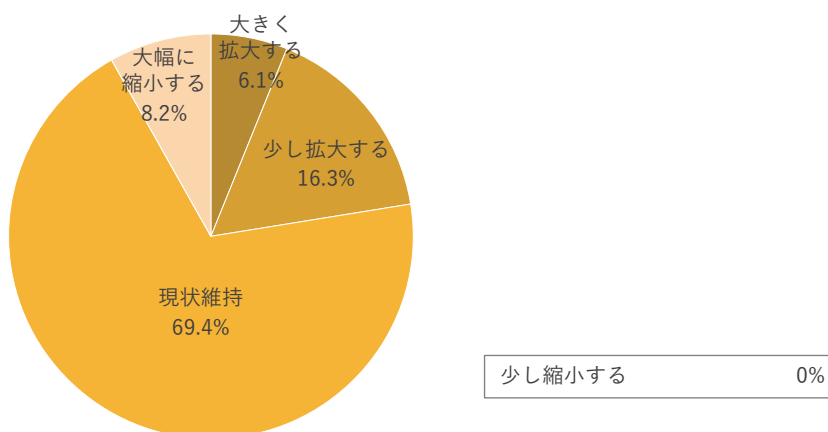
## 2-7 今後の留学生募集計画

今後の留学生募集計画については、「現状維持」とする学校が最も多く69.4%。一方で、「大きく拡大する(6.1%)」「少し拡大する(16.3%)」と留学生募集を拡大検討している学校は22.4%あった。

現在の留学生在籍者数に見ると、留学生が少ない学校は「現状維持」「大幅に縮小する」と回答する傾向、多い学校が「拡大する」と回答する傾向にあることがわかった。

### ◇今後、留学生募集をどのように計画していますか？

回答数：49件



			留学生募集についての課題			
			大きく拡大する	少し拡大する	現状維持	大幅に縮小する
総計		(n=49)	6.1%	16.3%	69.4%	8.2%
留学生在籍者数	いない	(n=6)	0.0%	0.0%	83.3%	16.7%
	5人以下	(n=12)	0.0%	8.3%	66.7%	25.0%
	6～20人	(n=10)	0.0%	30.0%	70.0%	0.0%
	21～50人	(n=3)	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%
	51～100人	(n=5)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	101～200人	(n=8)	12.5%	25.0%	62.5%	0.0%
	201人以上	(n=5)	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%

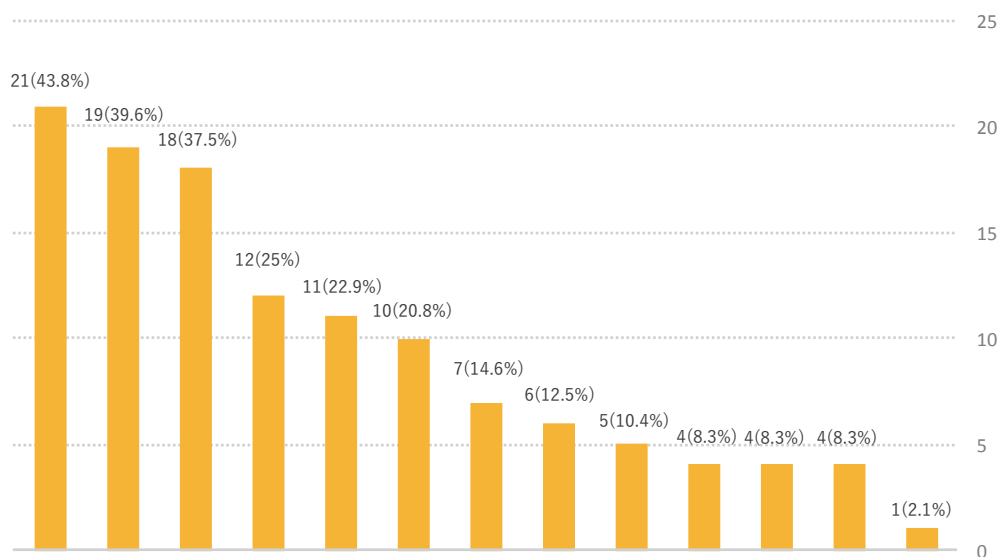
[すでに留学生を受入れている学校]

## 3-1 コロナ禍以降の留学生支援

コロナ禍以降の留学生支援の課題について、「日本語コミュニケーション能力の向上(43.8%)」が最も多く、「就職活動(39.6%)」「経済面のサポート(37.5%)」にも多くの回答が集まった。留学生の多い学校では「経済面のサポート」、少ない学校で「学習意欲の向上」「在籍管理」など学生個々の細かなケアが必要な項目にやや多く回答が集まったが、全体的には在籍者数による大きな偏りは見られなかった。

◇貴校にとって、コロナ禍以降の留学生支援の課題を教えてください  
(複数回答可/3つまで)

回答数：48件



		日本語コミュニケーション能力の向上	就職活動	経済面のサポート	健康管理	学習意欲の向上	在籍管理	学修スピード	生活環境の把握	ワクチン接種・PCR検査の機会提供	文化的・宗教的な問題	人間関係	資格取得	その他	
総計	(n=48)	43.8%	39.6%	37.5%	25.0%	22.9%	20.8%	14.6%	12.5%	10.4%	8.3%	8.3%	8.3%	2.1%	
留学生数	いない	(n=6)	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0
	5人以下	(n=11)	27.3%	45.5%	18.2%	18.2%	36.4%	45.5%	9.1%	18.2%	18.2%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0
	6～20人	(n=10)	60.0%	20.0%	30.0%	20.0%	20.0%	20.0%	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	30.0%	10.0%	0.0
	21～50人	(n=3)	66.7%	0.0%	66.7%	66.7%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0
	51～100人	(n=5)	60.0%	80.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0
	101～200人	(n=8)	50.0%	37.5%	62.5%	12.5%	37.5%	12.5%	25.0%	25.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0
	201人以上	(n=5)	20.0%	60.0%	80.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%



# 3 本調査

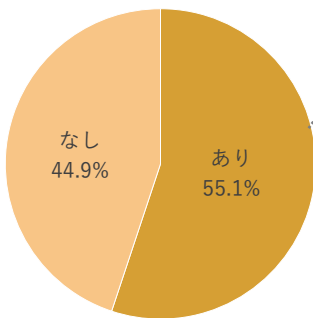
[すでに留学生を受入れている学校]

## 3-2 学費納入に関する対応

学費納入に関する留学生からの相談を受けたという学校は、55.1%と半数を超えた。理由としては、母国からの支援が滞ってしまったことやアルバイトの減少など、コロナの影響を受けたと思われる回答が多く挙げられた。こうした学費納入が困難となった学生に対しては、「分割納品を実施(81.6%)」「納入機嫌延期を実施(69.4%)」の対応をする学校が多く見られたが、一部の学校法人立校では「貴校奨学金制度(給付・貸与)を新設(17.4%)」「定額の給付金の実施(6.5%)」など積極的に経済支援を行う学校もあった。

◇学費納入に関する留学生からの相談はありましたか？  
あった場合はその他に理由もご記入ください。

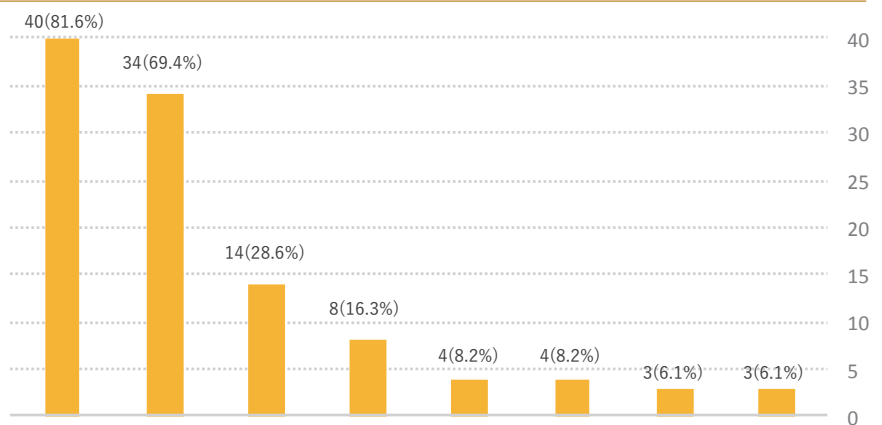
回答数：49件



母国からの支援に関して分割での支払いの相談/分割、延納の相談/母国からの仕送りがストップしており、納付期限の延納相談が多い。/母国がロックダウンで銀行に行けないので納期を遅らせて欲しい。/延納希望/延期願い/アルバイトがなくなったことによる、授業料の分納相談/一度に支払う金額が大きい/コロナで保護者の収入が減った/延納入、分納入の相談が多数/経済状況が厳しいため/分納・延納の相談/親の経済状況の悪化により納入期限までの学費の納入が困難/本国の経費支弁者の収入減による送金状況が悪くなった/延分納に関する相談/分割納入についての相談/母国の支弁者の経済的困窮、バイト給の減少/経費支弁者や本人の収入が減ったため/分納の相談

◇学費納入が困難な学生に対する貴校の対応をお聞かせください。  
(複数回答可/3つまで)

回答数：49件



		分割納入を実施	納入期限延期を実施	奨学金制度の紹介	貴校奨学金制度(給付・貸与)を新設	特に対応していない	減額を実施	定額の給付金の実施	その他	
総計	(n=49)	81.6%	69.4%	28.6%	16.3%	8.2%	8.2%	6.1%	6.1%	
設置者	学校法人立	(n=46)	80.4%	67.4%	26.1%	17.4%	8.7%	8.7%	6.5%	6.5%
	その他法人立	(n=3)	100.0%	100.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

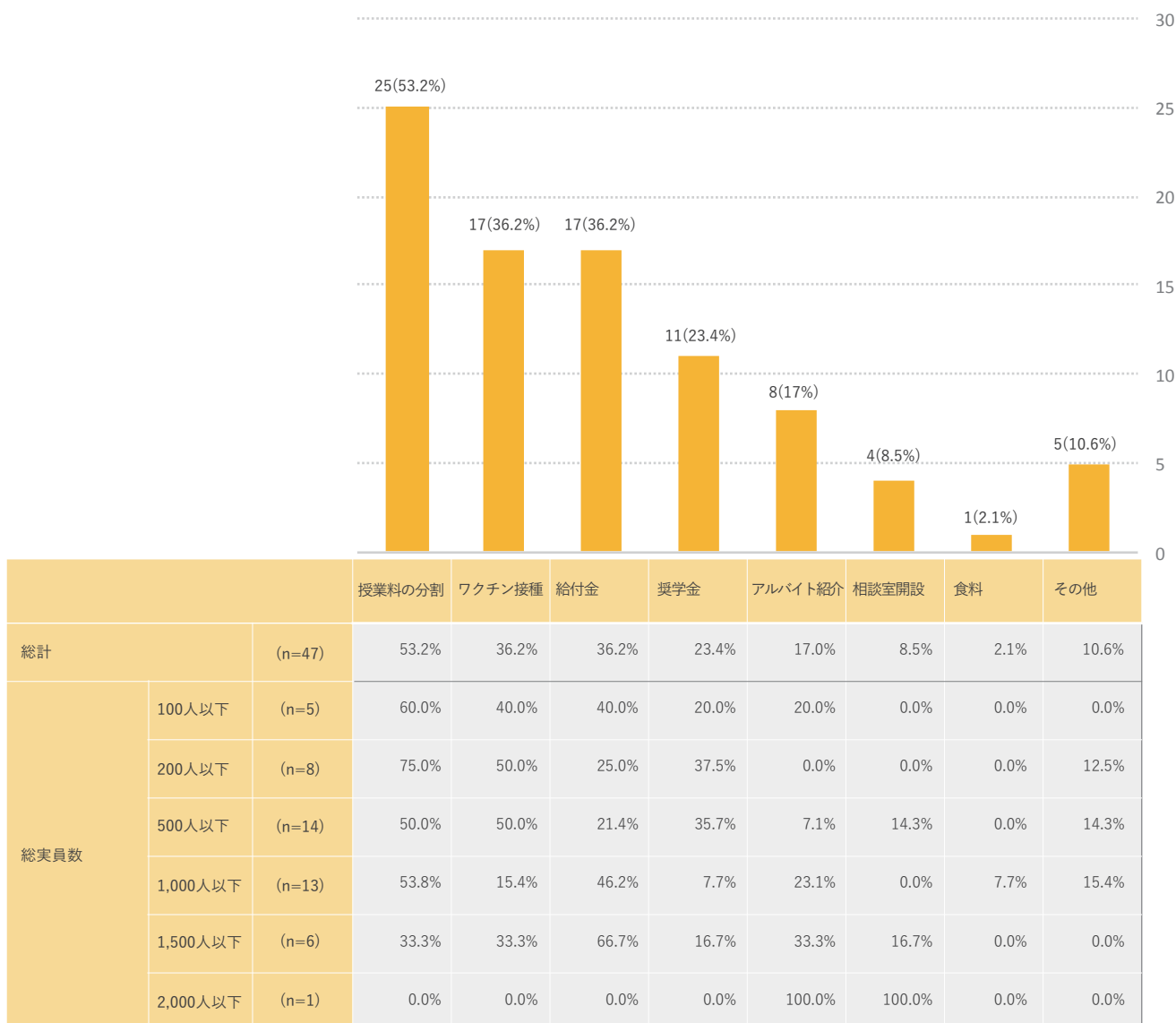
[すでに留学生を受入れている学校]

## 3-3 コロナ禍の学生支援対応

コロナ禍の学生支援対応について実施してよかった施策については、「学費の分納」が最も多く53.2%。専門学校でも職域接種を実施した学校があったことや、近隣の企業が職域接種を実施していたなどの背景から「ワクチン接種(36.2%)」という回答も多く見られた。学生規模別にみると、小規模校では「授業料の分割」、大規模校では「給付金」「アルバイト紹介」が多い傾向が見られた。

◇コロナ禍では、各学校もいろいろな支援策を行いました。  
 その中でよかったことを選んでください(複数選択可/3つまで)

回答数：47件



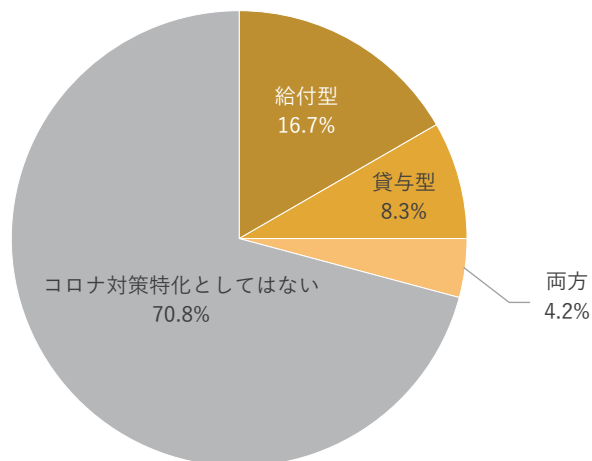
[すでに留学生を受入れている学校]

## 3-4 コロナ禍の奨学金

コロナ禍の学生支援施策として「奨学金」を挙げている学校が見られたが「給付型」と「貸与型」のどちらのタイプかを質問したところ、「給付型」が16.7%、「貸与型」が8.3%。奨学金の性質上、「給付型」の利用がおよそ倍となった。コロナ禍で留学生も経済的なマイナス影響は大きく、今後も多くの留学生が安心して日本留学を継続するためにも、こうした経済面での支援は今後も継続、拡充されていくことが望ましい。

◇コロナ対応のひとつとしての独自の奨学金がある場合、それはどのようなものですか？

回答数：48件



# 3 本調査

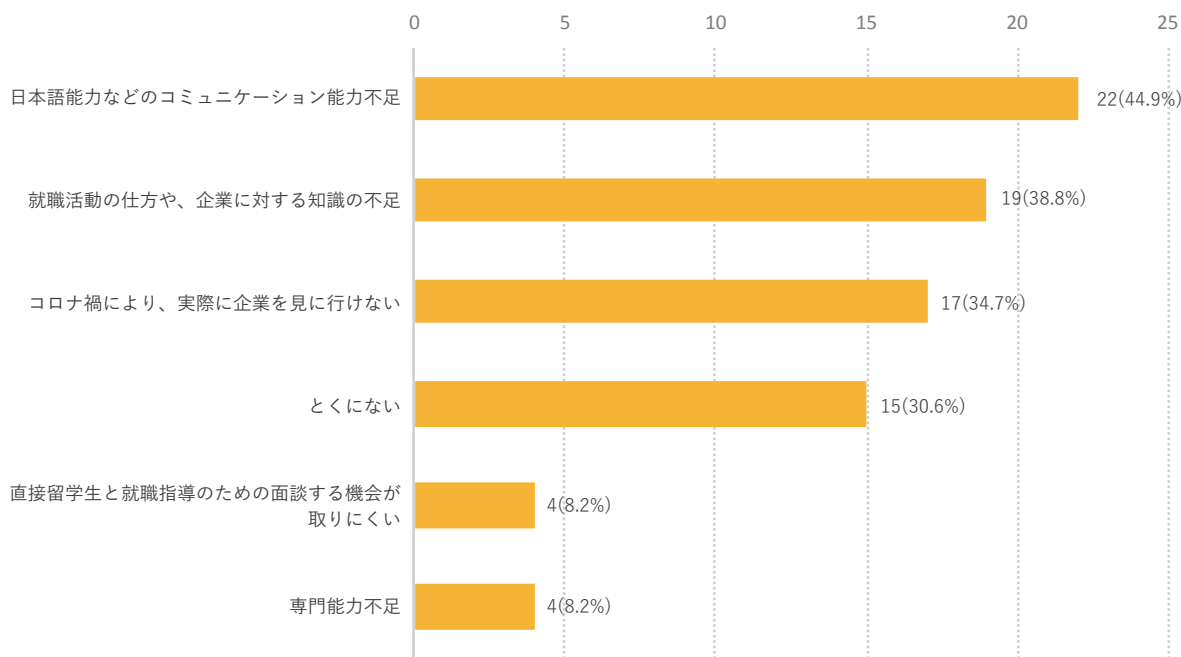
[すでに留学生を受入れている学校]

## 3-5 コロナ禍以降の進路指導・就職活動についての課題

コロナ禍で留学生の進学や就職にも影響が出ている。「進路指導・就職活動」の現在の課題について、「日本語能力などのコミュニケーション能力不足(44.9%)」の回答が最も多かった。オンラインやオンデマンドへの授業振替、マスクの着用や大きな声を出さない基本対策などで発音が聞き取りにくい、口元が見えないなど会話の機会の減少や制限が影響している。同様に、「コロナ禍により、実際に企業を見に行けない」「直接留学生と就職指導のための面談する機会が取りにくい」など、進学や就職の場においても、コロナの影響は大きい。

### ◇コロナ禍以降の留学生の「進路指導・就職活動」についての課題を教えてください(複数回答可/3つまで)

回答数：49件



# 3 本調査

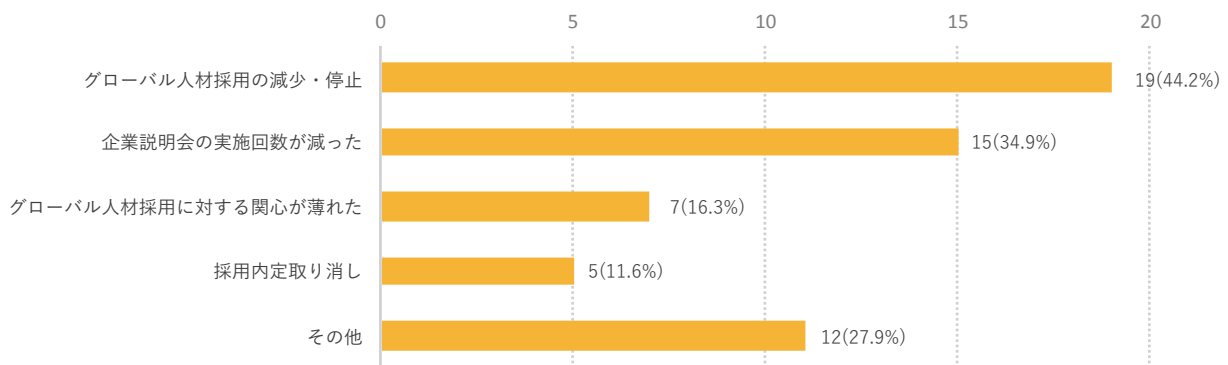
[すでに留学生を受入れている学校]

## 3-6 コロナ禍における留学生採用状況

コロナ禍の影響で、留学生採用状況も変化している。その変化として最も多く回答があったのは「グローバル人材採用の減少・停止」で44.2%。「企業説明会の実施回数が減った(34.9%)」などの回答もあるが、中には「採用内定取り消し(11.6%)」という回答も見られた。「就職決定者・内定者に関する取り消し」について改めて質問をしたところ、17.4%の学校が「あり」と回答した。

### ◇コロナ禍における企業の留学生採用状況の変化について 感じることを教えてください(複数回答可/2つまで)

回答数：43件

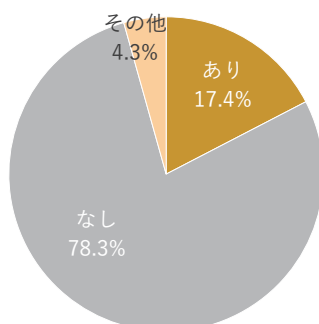


#### 〔その他・自由回答〕

コロナ禍以降での留学生の入学はなし	1
介護業界においては特に問題はなかった	1
求人数そのものやインバウンドに関連する就職先の減少	1
今年度は在籍者なし	1
専門分野の就職が少ない	1
特に本校の業界については採用状況の変化はありませんでした	1
留学生が在籍していないため不明	1
留学生が日本で栄養士として勤務することができないため	1
グローバル人材採用の優先順位の低下(日本人の採用優先)	1
特になし	3

### ◇就職決定者・内定者に対する取り消しはありましたか? あった場合はその他に理由もご記入ください。

回答数：46件



※その他	
留学生が在籍していないため不明	1
卒業後、ほとんどの留学生は母国に帰国しています	1

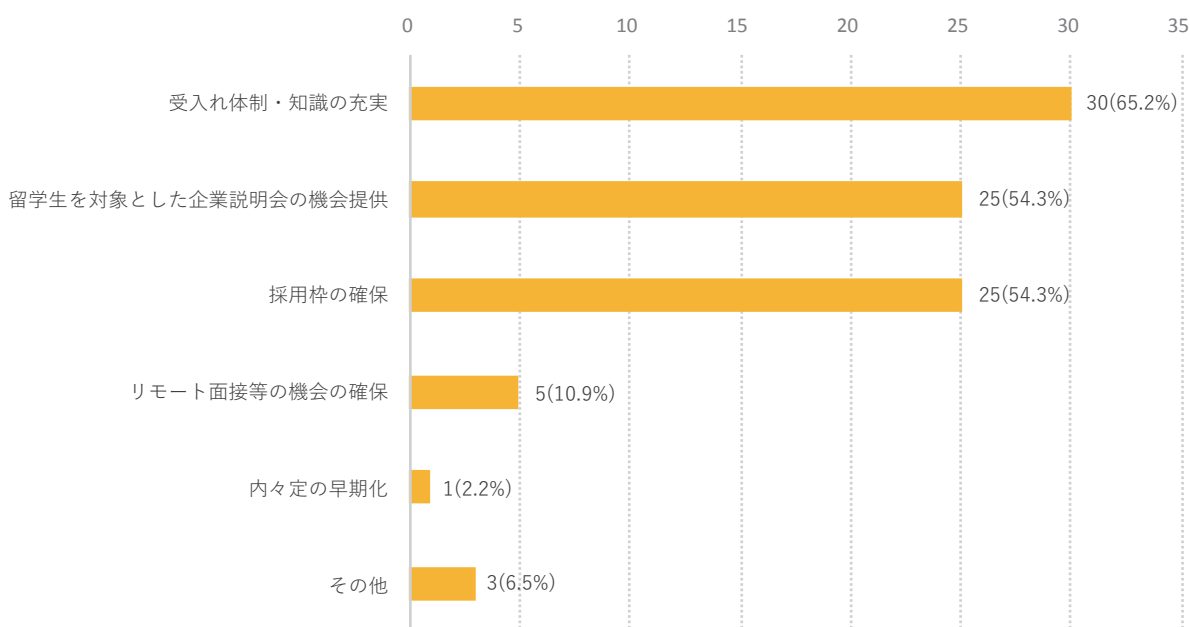
[すでに留学生を受入れている学校]

## 3-7 就職活動先企業への要望

就職活動先企業への要望を問う項目では「受入れ体制・知識の充実(65.2%)」「留学生を対象とした企業説明会の機会提供(54.3%)」「採用枠の確保(54.3%)」。それぞれ半数以上の回答があった。学生を送り出す側の専修学校としては、留学生にも多くのチャンスが与えられ、採用後も長期的に働けるような企業側の動きや体制作りが進んでいくことを期待している。

◇就職活動先企業への要望を教えてください(複数回答可/3つまで)

回答数：46件



〔その他・自由回答〕

美容業への就労ビザの許可	1
就職後の留学生のフォロー体制整備(定期的面談・研修等)	1
特になし	1

# 3 本調査

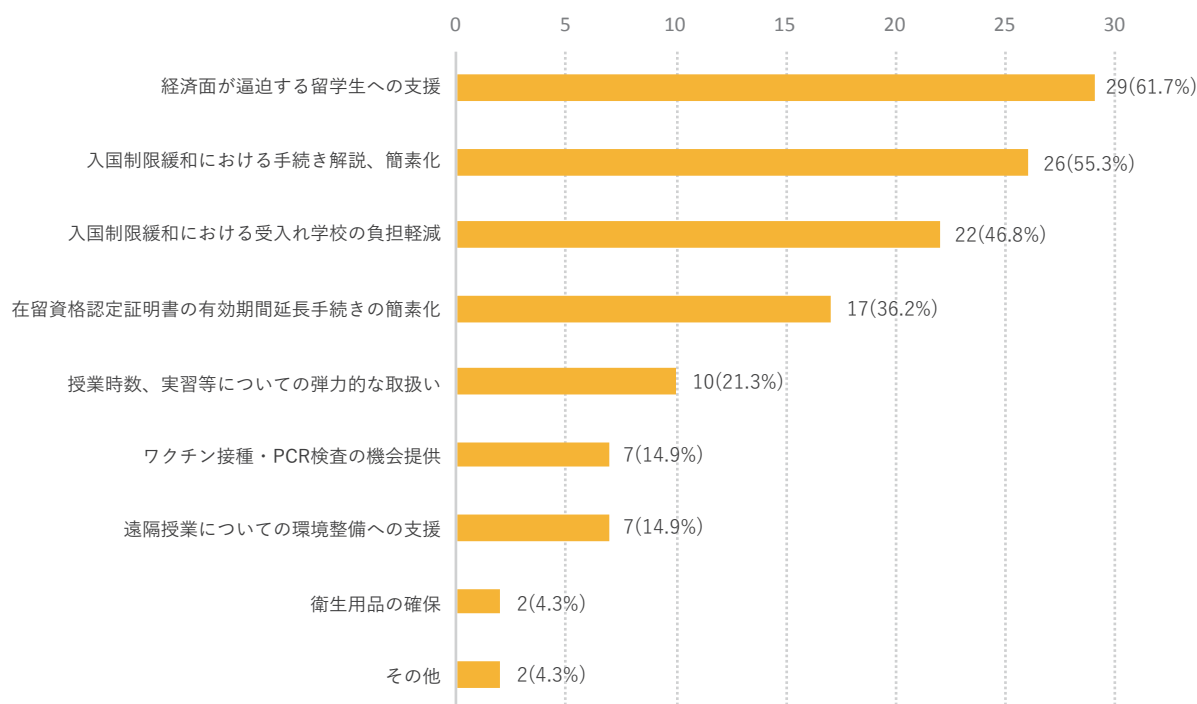
[すでに留学生を受入れている学校]

## 3-8 行政等への要望

行政等に対する要望としては、「経済面が逼迫する留学生への支援」が最も多く61.7%。次いで「入国制限緩和における手続き説明、簡素化(55.3%)」「入国制限緩和における受入れ学校の負担軽減(46.8%)」と入国制限緩和後の措置を求める声が多く集まった。経済状況悪化を理由とした入学辞退や中途退学、学費納入に関する相談などが起きている中、経済面を理由に日本留学を断念する学生を減らしたり、入国後にすぐに学習が始められる環境整備など、留学生生活そのものを支える施策が期待されている。

◇留学生に関わる行政等に対する施策の要望でとくに期待するものをお答えください(複数回答可/3つまで)

回答数：47件



# 3 本調査

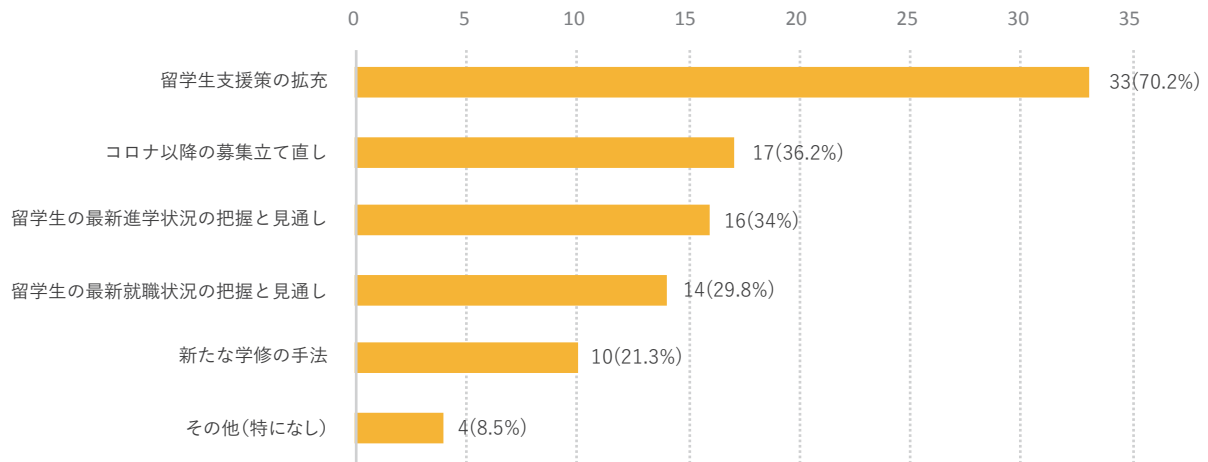
[すでに留学生を受入れている学校]

## 3-9 留学生イベントに期待すること

専修学校と日本語学校に関わるイベントに期待することは、「留学生支援策の拡充(70.2%)」が最も多かった。専修学校と日本語学校で、連携しながら留学生支援をしていくことが期待されている。

◇専修学校と日本語学校に関わるイベント(研修会、交流)等で、どのような内容を希望しますか?(複数回答可/3つまで)

回答数: 47件





## 3-10 大専各に期待すること

◇留学生の受入れや就職について、大専各に対するご意見やご要望、期待することなど自由にお聞かせください。(任意)

回答数：14件

- ・留学生の受け入れが、具体化してきた際には、色々とお教えを頂きたいと考えておりますので、その際は、宜しくお願いします。
- ・留学生の受け入れについては、今後必要になるのではと考えてはいます。また、その時には色々ご相談したりすることがあると思います。よろしくお願いいたします。
- ・日本語学校における日本語の確実な上達を大専各からの要望として出し続けて欲しいと思います。
- ・学校紹介サイト等は民間も含め多数あります。大専各のサイトが留学生や関係者に使われるよう、また、その他のサイトに埋もれることがないように維持改廃・発信を強化してください。
- ・募集を増やす経営的な側面だけでなく、留学生の犯罪や違法行為を減らす取り組みや仕組みも考えて欲しい。
- ・留学生の支援策が打ち出される際、必ず受入校の作業が膨大になる。行政直轄の対応など、国と留学生の関係にて作業が完結できるシステムを構築していただきたい。留学生に限らず日本人の奨学金制度も同様で、なぜインターネットを経由しているにも関わらず取次校の作業が減らないのか疑問である。本来の学校事務の作業とは異なる作業が増え、現場は大変負担を強いられている。過去の慣習や、制度を改革しないことには、何も変わらない気がする。本当に変えていただきたい。
- ・大学に在籍している留学生との差別化。専門学校に在籍している留学生のメリットについて、共通の資料を作成していただきたい。
- ・2022年3月で閉校しますので、回答を差し控えている項目があります
- ・本アンケート回答が留学生の将来の一助になることを願っております。

(「特になし」の回答5件)

令和3年度文部科学省委託事業  
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」

留学生に関する実態把握アンケート調査報告書  
[専修学校対象]

発行日 2022年2月 第1版

受託 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

編集 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会  
(データ集計・分析 株式会社アクセスネクステージ)

住所 〒534-0026 大阪府都島区網島町6-20 大阪私学会館1F

TEL 06-6352-0048 FAX 06-6352-7553

大専各サイト <https://daisenkaku.or.jp/>

大専各留学生支援サイト <https://study-osaka.com/>